

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
学校像	1 一人ひとりが安心して、自分の良さを伸ばせる学校 2 歴史と文化を大切にし、未来へ羽ばたく学校 3 保護者・地域と連携し、信頼される学校	学力の向上	○主体的に学ぶ子どもの育成を目指し、校内研究の中で全員授業公開を実施し、授業力の向上に努める ○英語活動やその他の教科の中で児童のコミュニケーション能力の向上につながる授業づくりを行う ○家庭学習の習慣づくり、自学の内容充実に向けて、具体的な支援を行う
子ども像	1 学力の向上 主体的に学び、自ら考え創意工夫する かしこい子ども 2 豊かな心の育成 豊かな心を持ち、素直でともに生きる やさしい子ども 3 健康と体力向上 たくましく明るく主体的に実践する つよい子ども	あいさつをはじめとした規範意識の向上	○「いつでも、どこでも、だれにでも」あいさつを行うこと、場に応じたあいさつができることを目指し、「あいさつレベル」を設定し指導を強化する ○正しい言葉づかい、相手の気持ちを考えた言葉づかい等を学ぶ学習に取り組む ○渡船場周辺や船の中でのルールについて指導を徹底する。
教員像	1 一人ひとりの子どもの気持ちに添える教師 2 たゆまぬ研究と修養に努め、専門性と指導力を磨き続ける教師 3 学校全体を視野に、常に全校児童のために仕事する教師	小中一貫校開設に向けた取り組みの推進	○新しい学校経営方針の具現化に向けた指導の重点と具体的な取り組みを設定し共通理解する。 ○小中一貫教育カリキュラムを作成する ○能古らしい教育内容の創造と「ふるさと科」を先行実施し、課題を整理し、改善を行う。

重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明
主体的に学ぶ子どもの育成	福岡市の学力調査で全教科「やや上回っている」以上にする	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果については、全学級で全教科、目標を達成できた。ただ領域によってはまだ課題もあるので、見えてきた課題については補充学習の中で重点的に取り組んだり、授業改善に活かしたりしていきたい。 ・授業の中では、どの子もめあてをつかみ、90%以上が意欲的に自立解決に向けて取り組むことができた。 ・低学年においては全員が決められた家庭学習に取り組むことができた。高学年は自学にも取り組んでいるが、個人差が見られるので、個別の指導・支援が必要である。 ・総合学習カリキュラムの作成はほぼ終えることができた。今後、小中一貫教育カリキュラム作成に取り組みたい。
	検証授業を通して90%以上の児童がめあてにそって自分なりの解決方法を考え自立解決をすることができるようにする。	
	家庭学習において、低学年は出された課題を、高学年は自学も含めた課題を100%できるようにする。	
	能古のよさを体感できる「総合的な学習の時間カリキュラム(案)」づくりを今年度末までに完成させる。	
いつでも どこでも だれにでもあいさつできる子どもの育成	月1回の小中合同挨拶集会を継続し、小学校からも学期1回は提案する。	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、小中で交互に担当し、年間通した「挨拶集会」を実施することができた。その中で自分たちの挨拶の良さを確認し合ったり、課題を出し合ったりし、改善に努めることができた。 ・地域・保護者からの評価は85%「高評価以上」であった。ただ学校ではあいさつができていない児童も、学校外や地域活動の中ではまだできていない実態がある。 ・年度当初は「いつでも どこでも だれにでも」の挨拶ができつつあったが、次第に中だるみのような状況が見られた。職員からの高評価は90%ではあるが、今後学年の実態に応じた「あいさつレベル」を設定し具体的な指導を強化していきたい
	保護者・地域からの「高評価以上」の評価を95%以上にする	
	職員からの「高評価以上」の評価を75%以上にする	
一人ひとりが安心して、保護者から信頼される学校づくり	QUアンケートでの満足群を75%以上にする	<ul style="list-style-type: none"> ・QUアンケートの満足度は2学期、75パーセント以上であった。また年間2回実施したが、それぞれの学級で2回目の方が満足度が上がり、学級づくり、人間関係づくりの成果が着実に現れていた。 ・児童の成長を感じた職員の割合は93%であった。 各学級で帰りの会等にも、お互いの良さ、良かった言動を交流し合う活動が定着し、自尊感情の向上にもつながっていると考えられる。全校朝会でも月の目あての振り返りをし、それに合わせた指導を行うことができた。児童自身の自己評価を通したPDCAサイクルの充実に今後取り組むたい。 ・担当の努力もあり、ホームページはほぼ毎日更新することができた。今後も保護者のニーズをとらえたホームページの充実に努めていきたい
	友だちのよさを実感するコーナーを全校統一した取り組みとしてPDCAサイクルで実施し、児童の成長を感じる職員の割合90%以上を目指す。また学期に1回、全校朝会で担当から取り組みの紹介や成果の報告を行う	
	最低でも週に2回はホームページを更新し、学校の取り組みや必要な情報を発信し、保護者の理解を得られるようにする。	

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

○学力のみに目を向けた教育でなく、挨拶や規範意識の育成にもしっかり取り組んでいるので、今後も継続していただきたい。またホームページの情報も随時更新されていて、保護者や地域の方も身近な存在に感じることができる取り組みが行われていると思います。
 ○いじめは、どの子にもどの学校でも起こりうるという認識で、いじめのない学校づくりに取り組んであるという話を聞いて安心しました。今後もそういった危機意識を持って取り組んでほしい
 ○小中一貫校設立に向けて、保護者や地域、先生方の意見を反映しながら取り組みを進めていってほしい。
 ○あいさつは随分できるようになっていると思います。船の中で、進んで高齢者の方に席を譲ることができるような子どもの育成、マナーの向上にも取り組んでほしい。